

□新チーム戦術へのトライ 「0 トップ 3 ボランチシステム」 総評

自分たちの良さを発揮できた前半戦

新チーム戦術のビルドアップからの 0 トップ 3 ボランチシステムの片鱗を見ることができました。

前日の脳震盪により G K 不在の中、不運なオウンゴールからもよく切り替え、ビルドアップ時のミスから攻められる場面は課題として残りましたが、相手にサッカーをさせず、意図的に作った裏のサイドスペースを何度か脅かしました。守備においては、ボールを奪うエリアを限定し、相手の勝負のパスを何度も奪いカウンター的なポジションを試みました。相手のストロング 14 番 (top) への縦パスに対するチャレンジ&カバー、プレスバックも機能していたと思います。

流れのミスからの切り替えも早くよくがんばり、難しいピッチで前半をナイスゲームで折り返しました。キャプテン小林の話にもあったように、ミスからの切り替えだけでなく、意図的に奪った後の攻撃への切り替えの早さが課題です。

勝つための勢いを増してきた相手チーム 後半戦

後半の立ち上がり、相手のプレッシャーが気合と共に増す中、勝ちたい気持ちで下回ってしまう展開から、消極的なプレーのミスにつかれて失点してしまいます。

トライしたプレーからの失点はともかく、弱気のミスからの失点はチームの勢いをさらに削いでしまいます。チャレンジとは「闘う気持ち」と「勇気」がなによりも必要です。トライからの失敗は大歓迎です。ここは、チームとして選手どうしが叱咤激励し、改善していきたい部分です。

後半はミスから点差が開いてしまった事もあり、相手が後ろから攻めてこない展開となりましたが、逆を言えば、アラスの選手たちがスペースと人を管理していたため、相手の攻め手が限られていた展開となりました。

勝ちたい気持ちは教えてもらうモノではありません。「勝利を目指すプロセス」の中に、チームとしての成功、個人としての未来への成功も隠されています。高いレベルのリーグに参加する権利を自分たちで掴んでここにいます。今一度「勝つための準備を自分たちから行動する」といった部分から見直していきましょう。

結果は悔しいですが、とはいえ、Aリーグ 2 日目にして、準備してきた自分達のサッカーで十分できる事を確認できた部分には、今後の伸び幅に対し期待感も高まりました。

ファールぎりぎりのプレッシャーの中でプレーできるコト。体力が減っていく時間帯でころんでしまう。現在地点を受け止めて、さらなる進化を目指します。

皆さま引き続き選手たちへの応援を宜しくお願い致します。